

仙台市

地域活動の事例紹介

おらほ！のまちづくり

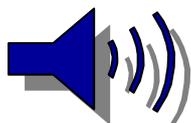
まちづくりの

ヒント発見！？

地域では、いろんな創意工夫をしながら、まちづくりに取り組んでいます。ここにご紹介する事例が皆さんの活動の参考となればと思います。

目次

いかに素晴らしいチーム＝町内会＝をつくるか ～国見中央町内会～【国見地区】	1P
住民総参加のまちづくりを目指して ～作並・新川地区活性化連絡協議会～【作並・新川地区】	2P
認知症になっても笑顔でハッピーな暮らしを支える ～ハッピーカフェ実行委員会～【幸町南地区】	3P



お知らせ…

「地域のみなさんで行うまちづくりを応援します」 ～まちづくり支援専門家派遣制度～

仙台市では、地域の方が主体的に行うまちづくり活動を支援するため、まちづくりを行っている団体（町内会等）に対し、まちづくり専門家（※）を派遣する制度を設けています。まちづくり専門家は、まちづくりの勉強会や意見交換などの初期段階の活動から、まちづくりの計画策定などのより進んだ段階の活動まで、専門的なアドバイスや情報提供などのお手伝いをします。

まちづくりを進めるためのワークショップ開催をはじめ、話し合いの場ではファシリテーターとしての役割を担うなど、住民主体によるまちづくりの心強いアドバイザーとなります。地域の良さを活かしたまちづくりを始めたいときや、まちづくりの中で困りごとがある場合には、是非まちづくり支援専門家派遣制度を活用してみてもはいかがでしょうか。

詳しくは、下記ホームページをご覧ください。

■アドレス <http://www.city.sendai.jp/chiikekaku/kurashi/machi/kaihatsu/toshikekaku/>

[katsudoshien/hakensedo.html](http://www.city.sendai.jp/katsudoshien/hakensedo.html)

■お問い合わせ 都市整備局 都市計画課 (Tel.022-214-8295)



※まちづくり専門家

まちづくりや地域の活性化に関する知識や経験がある、本市に登録しているアドバイザーまたはコンサルタント

記事に関するお問い合わせ先

- 青葉区役所まちづくり推進課
電話 022-225-7211 (内線 6132)
- 宮城総合支所ふるさと支援担当
電話 022-392-2111 (内線 5181)
- 宮城野区役所まちづくり推進課
電話 022-291-2111 (内線 6132)
- 市民局地域政策課
電話 022-214-6129 (直通)

住民総参加のまちづくりを目指して

～作並・新川地区活性化連絡協議会～

住みよい、魅力あるまちづくりを目指して



作並・新川地区活性化連絡協議会会長の石垣さん

全国的に中山間地域における少子高齢化や休耕地の拡大が問題になっています。その傾向は作並・新川地区でも例外ではなく、ここ数年の間に少子化等に伴う児童数の減少により分校が休校し、休耕地の増加に伴い住宅近くまでイノシシやクマが出没するなど現実的な問題となっています。

このことから、様々なニーズや生活課題の解決に向けた取組みを推進し、魅力ある住みよいまちづくりを行うことを目的に「作並・新川地区活性化連絡協議会」を設立することになりました。会長に就任した石垣さんは、

「今回の動きは遅かったぐらいだと叱咤激励をいただくこともあったが、地域の方のお力や仙台市まちづくり支援専門家派遣制度を活用して、身近な問題をひとつひとつ解決しながら、住みよい環境づくりを進めていきたい」と決意を語っていらっしゃいました。

作並・新川地区は、宮城総合支所管内の西部地域に位置し、地区の中央をJR仙山線と国道48号が東西に走り、それとほぼ並行に広瀬川が流れ、そのところどころに住宅や水田等が点在する、とてもどかな田園風景が広がる地域です。また、作並温泉やニッカウヰスキー仙台工場、鳳鳴四十八滝等の観光資源があり、四季を通じて多くの観光客が訪れています。



鳳鳴四十八滝から鎌倉山を望む

何事も柔軟に

平成29年9月に作並生活センターで設立総会が開催され、作並、新川、ハイランドの3町内会を中心に、作並・新川地区に関係する21団体が参加しスタートしました。特に協議会に加入するための決まりはなく、この地区に関係する個人や団体であれば、いつでも参加できるようになっています。



設立総会では活発な意見も

また、当初計画した事業のほかに、アンケートや地域懇談会などで提案のあった中から、参加者の理解が得られた事業については、試行的に実施してい

きます。「住民の方々にこういった事業への参加を通して、ひとりひとりがまちづくりの主役であるということを変更して認識してもらい、より大きな取組みにつなげていければ」と話す石垣さんの笑顔から期待の大きさが伝わってきました。

【協議会メンバー一覧】

(町内会3、まちづくり団体6、公的団体7、事業所5)

作並町内会、新川町内会、ハイランド自治会、奥新川自然振興会、作並振興協会、作並地区未来プロジェクト、関山街道フォーラム協議会、仙台・作並回文の里づくり実行委員会、新川ほたるの里づくり実行委員会、広陵中学校、広陵中学校PTA、作並小学校、作並小学校PTA、作並学区民体育振興会、作並地区婦人防火クラブ、新川地区婦人防火クラブ、宮城西市民センター、作並温泉旅館組合、JR作並駅、ニッカウヰスキー(株)仙台工場、みやぎ仙台商工会

常に情報共有を大切に

過去の反省から協議会で話し合ったことや、アンケート及び地域懇談会の結果をあらゆる機会を見つけて住民の方々に伝えることにしています。例えば、アンケート結果を各地区地域懇談会の場で報告したり、協議会内に広報部会を立ち上げ、全戸配布の広報紙を発行して、アンケート結果はもちろん、協議会や地区地域懇談会の様子をお知らせすることにしています。また、情報の一方通行を避けるため、広報内容について、積極的に意見をいただくような工夫もしていくことにしています。



設立後初めての地域懇談会

その実践例として、平成29年11月23日に

行われた宮城西市民まつり会場で、アンケート結果を展示・紹介しました。地域外での展示が初めてとなった今回、1,500人を超える来場者で賑わう中、アンケート結果や作並・新川地区の印象について直接お伺いしたり、また来場者向けアンケートを通して数多くの貴重な意見をいただくことができました。石垣さんは、「今回の感想の中には当事者では気づけないこともあったので、今後も地域外に住んでいる方や地域内の事業所に勤務されている方等からご意見をいただく機会を増やすほか、先進地の視察も考えていきたい」と意気込んでいます。



西市民まつりでの展示の様子

認知症になっても笑顔で ハッピーな暮らしを支える

～ハッピーカフェ実行委員会～

支援者の会から集いの場へ ～設立まで～

平成28年3月に活動が始まった「ハッピーカフェ」は、復興公営住宅として整備された幸町第三市営住宅への入居者を支援する「支援者の会」を母体としています。

町内会、社会福祉協議会、民生委員児童委員、赤十字奉仕団、小松島地域包括支援センター、グループホーム「よもぎ埜」等、地域の各種団体により構成された「支援者の会」は平成28年3月に解散予定でしたが、入居者から継続的な「集いの場」を求める声が多くあがったことから、「実行委員

会」に模様替えし、新しく認知症の方とその家族、そして地域の方々が交流する学びと憩いの場として、「ハッピーカフェ」をスタートさせました。



開始前は皆さんで雑談をします♪

ハッピーカフェ活動



新聞紙で防災グッズを作成中

「ハッピーカフェ」は、毎月第3水曜日に幸町第三市営住宅の集会所を会場に開催しています。時間は午後1時半から2時間程度、活動内容は大きく分けてミニ講話と参加型のイベントの2つになります。ミニ講話では、「認知症ってなんだろう?」、「認知症とともによりよく生きる」といった認知症に関連する内容をはじめ、「法定後見制度について」、「熱中症について」など認知症を取り巻く制度や健康に関するものまで幅広く行っています。また、イベントは「スタンドグラスづくり」、「新聞で防災グッズづくり」などの手作業を伴う工作的なものや、バイオリンやハーモニカの伴奏による合唱などを行っています。

平成29年8月23日に開催されたカフェでは、参加者全員

「ハッピーカフェ」は、毎月第3水曜日に幸町第三市営住宅の集会所を会場に開催しています。時間は午後1時半から2時間程度、活動内容は大きく分けてミニ講話と参加型のイベントの2つになります。ミニ講話では、「認知症ってなんだろう?」、「認知症

がまず骨密度の測定を行い、それぞれの年齢判定に驚いたり喜んだりしながら、笑顔で結果を教え合っていました。

続いて、「骨密度と骨の成長について」の講話がありました。骨の栄養源となるカルシウムの摂取方法や運動して骨に負荷をかけること、カルシウムの吸収率を高めるためには陽にあたるのが良いことなどの話に、皆さん一生懸命聞き入っていました。

その後は、ハーモニカの伴奏で「静かな湖畔」などを参加者全員で合唱し、最後は実行委員の中尾さん（幸町南学区連合町内会長）から、「ちょっとだけ知りたい雑学」として「ソーセージとハムの違い」についての話がありました。

普段分かっているようで分からない身近な話題を取り上げ、参加者が楽しく過ごせるように毎回工夫を凝らしていると感じました。



ミニ講話に聞き入る参加者のみなさん

これからのハッピーカフェ

実行委員の皆さんにこれからのハッピーカフェについて伺いました。「ハッピーカフェの運営における課題は会場の狭さです。ハッピーカフェの開催はこの10月で20回を数える



こととなりますが、参加者数（一般参加者、見学者及びスタッフ）を見てみると、最多が48名で、1回あたりの平均参加者数は37名、40名以上の参加者数の回数は9回となっています。また、会場となる集会室は、40名を超えるとすし詰め状態になりますが、会場を近くの広い施設に変更するのは、高齢者の移動

の問題もあり難しい状況にあります。そのため、広報活動を制限せざるを得ない状況にあり、そのような状況が続くと参加者の減少が懸念

されます。これからもハッピーカフェの開催目的を忘れずに、これらの課題の解決を図りながら活動を継続していきたいと考えています。」と話していただきました。



実行委員会スタッフのみなさん